



2023年8月7日

各 位

上場会社名 日本鑄鉄管株式会社  
代表者名 代表取締役社長 石毛 俊朗  
(コード番号 5612)  
問合せ先責任者 取締役管理本部長 長谷部 圭一  
(TEL 03-3546-7675)

## 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年5月11日に公表いたしました「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において、2024年3月期の通期連結業績予想及び期末配当を未定としておりましたが、本日、下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ●業績予想の修正について

2023年3月期通期連結業績予想数値の修正(2023年4月1日~2024年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	未定	未定	未定	未定	未定
今回修正予想(B)	18,200	550	580	240	74.70
増減額(B-A)	—	—	—	—	
増減率(%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	17,288	521	576	362	112.79

### 修正の理由

5月11日の決算発表時におきましては、世界的なインフレと金融引き締めが続く中、原材料価格やエネルギー価格等の諸物価の動向が見通しにくい状況が続いており、2023年度の業績予想につきましては、原材料価格や諸物価の年度影響額や今後の販売数量・価格について、合理的な算定ができないことから、未定とさせていただきます。

これらの指標について、いまだ不透明な部分は残るものの、2023年度第1四半期決算を踏まえ、2023年度通期の経常利益予想を昨年度実績とほぼ同水準の5.8億円といたします。

この業績予想には、以下の要素等を反映しております。

売上高につきましては、22年度の追加の価格改定が売上高へ計上されること等を織込み、前年度比9.1億円増の182億円と見込みました。

収益につきましては、以下の点を想定し、通期の収益予想を見込みました。

- ① 営業利益、経常利益は前年度比ほぼ横ばいといたしております。売上高の増加が見込まれるものの、対前年度通期では原材料価格や諸物価の上昇等による年度影響を応分に織り込んでおります。
- ② 親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、「固定資産の取得及び特別損失の発生見込みに関するお知らせ」のとおり、今般の電気炉建設にあたり、久喜工場内の電気炉建設予定地と干渉する「静圧鑄造ライン」の既設機器等の解体・撤去工事を計画しており、特別損失として今後発生する見込みの撤去費用等110百万円(概算)を織り込んでおります。

この度は、販売価格の改定を進めている中で、原材料価格や諸物価の上昇等による年度影響も応分に織り込んだ結果、経常利益はほぼ横ばいの予想とさせていただきますが、今後も一層の体質強化や環境変化への適応力向上を図り、ペースを緩めることなく、さまざまな収益改善策に挑戦してまいります。

株主及びステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### ●配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (2023年5月11日発表)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —
今回発表予想	—	0.00	—	22.00	22.00
当期実績	—				
前期実績 (2022年3月期)	—	0.00	—	33.00	33.00

#### 修正の理由

当社は、上下水道・ガス事業といった公共インフラを対象とした事業展開をしており、「あたりまえ」を継続的にお届けすることを会社の使命としていることから、長期的かつ安定的な経営基盤の確立を重要視しており、株主各位への安定的な配当の維持を基本方針としております。

この基本方針に則り、期末配当予想を以下のとおりとさせていただきます。

2023年3月期決算発表の際には、経営環境が当社事業に与える影響が不透明であったことにより、合理的な2023年度業績予想が困難であることから、配当予想についても未定とさせていただきました。今般、2023年度第1四半期決算を踏まえ、2023年度通期の親会社株主に帰属する当期純利益の予想を240百万円としております。この業績予想を踏まえ、未定としておりました期末配当を1株当たり22円とさせていただく予定であります。

※上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上